

パ ン セ の 木 P e n s é e T r e e

パンセ個別指導学院
発行所：埼玉県所沢市西所
沢1-12-4-5F
TEL：04-2925-7560
E-mail: support@pensee.gr.jp
URL: http://www.pensee.gr.jp

暑い日が続くかと思いつつも九月も半ばになろうとしています。みなさん、夏期講習が終わり、新学期のリズムに合わせる事ができていますでしょうか。この時期は体調を崩しやすい時かもしれません。無理は禁物です。中学生、高校生のみなさんは中間テストに向けて徐々に準備を整えていきましょう。

昔から「読書の秋、勉強の秋、運動の秋・・・」などと言われるように、何かに取り組むのによい季節が到来します。みなさんも、なにかひとつ自分で決めて取り組むといいたらどうでしょうか。

この秋、高校や大学の文化祭など、進学先を探すために見学に行く人も多いかもしれません。進路についてもわからないことがあれば、積極的に各教室に相談してください。ヒントが得られるようパンセが応援しています。

パンセ教務部

原風景と人間の生活

小川ではスイカや野菜が冷やされ、沢で釣りをする姿があちこちで見られる—そんな夏にありふれた風景は時代と共に変化しました。今では自宅用の冷蔵庫が野菜を冷やし、スーパーに夕食の魚が用意されています。

昭和30年代からパンセの各教室がある一帯も都市化が広がり、風景も変化してきました。生活排水を流す水路の必要性や台風などの水害対策から人間の生活と川とは隔絶されるようになり、清流は洗剤の泡でおおわれ、生き物が死滅したドブ川が増えました。

昔の生活の中には、多くの生き物たちと隣り合いながら生きる喜びがありました。せせらぎが聴こえる場所は、土壌や水、植物や動物との絆を感じる場所でもありました。

土壌は、岩や動植物が長い時間をかけて積み重なったものです。土の中には数多くの菌や虫がいて、その働きで分解された栄養分が蓄わえられています。雨はゆっくりと地面にしみこ

おすすめの資料館

インターネットで検索してみよう!

歴史を尋ねるなら・・・

「江戸東京たてもの園」

歴史的資料として価値のある実際の建物を多数集めています。実際に昔の建物に入つての貴重な体験ができます。

自然を尋ねるなら・・・

「牧野富太郎記念庭園」

この夏リニューアルオープンです! 独学で植物博士になった牧野博士のつくった小さな庭園です。博士の生涯を紹介したビデオや珍しい植物、博士のデッサンや植物採集の道具などを見ることができます。

最適解を求めて その1

三か月前の、神社の境内を飛ぶ蝶や羽虫は自分を自然の一部だなどとは意識せずに生きていました。動物や植物は、人間のよう自分以外の多数の個体を意識して社会システムを作ったり変えたりはしませんが、与えられた時間を無意識に生きて、決して生涯を過つことがありません。話は飛ぶようですが、わたくしには三人の子供がいます。どの子の場合もハイハイから立つて歩くようになったのは、親の教育や自分の意識でそうなったわけではありません。ひとりです、自然と立って歩くようになったのです。それは、野生のカモシカの赤ちゃんが産み落とされて間もなく走りだすのと同じ本能の力でしょう。

しかし、人間がほかの生物と違う、進化した存在である理由の一つは、人間だけが言葉を持っているからだと思えます。「物心(ものごころ)がつく」という言葉がありますが、幼児はそれと同時に言葉を覚え始めます。個と個の対話は物心がついて初めてできるようになります。この物心を、自意識と言いつまり、子供たちは自意識の目覚めとともに言葉を使うようになり

人は、自然の中にいるとき自分が自然の一部だと直観するうちに、自分が家族や地域や社会の一員として生きていているのを実感すると、同時に他の人々と共にこの世界を作り上げていくことを意識します。そして、言葉を使うことを通して、すなわち学習を通して自他との差異を自覚し、自分の内部を外に向かつて表現できるようになります。

豊かであろうとなかろうと、勉強が好きだろくなかろうと、友達を作り方が上手だろくなかろうと、本当はそんな差異は大した問題ではありません。人は好むと好まざるとにかかわらず、与えられた条件の下で、自分出来る限りのところで努力し、後悔することが少ない状態で生活を送る—それが、人が自分の最適解を得ている状態であるとわたくしは思えます。

次号へ続きます。 塾長 拝

編集後記

前号は、パンセテキストの紹介を致しました。よく「勉強の仕方が大切」と言いますが、テキストの使い方もその一部であり、大切なことなのです。今回はみなさんの興味が広がるような話題を盛り込みました。また、次回も楽しい内容にしたいと考えています。 パンセ編集部